

■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]	■ 単位数
	森林・林業概論(含実習)	1
■ 担当教員(責任)[ローマ字表記]		
豊田 信行 [TOYOTA Nobuyuki]		
■ 担当教員[ローマ字表記]		
豊田 信行 [TOYOTA Nobuyuki]		

■ 授業題目(必須入力)

森林・林業概論(含実習)

■ 授業のキーワード(必須入力)

森林・林業用語, 目標林型, 森林施業, スギ・ヒノキ人工林

■ 授業の目的(必須入力)

我が国の潜在植生としての天然林を理解すると共に, 人工林で生産目的を達成するために必要な施業方法を理解する。これら森林施業の得失を理解することで, 地域森林に望ましい目標林型を検討し, 管理技術としての森林施業を選択する基礎能力を身につける。

■ 授業の到達目標(必須入力)

- 1) 日本の森林と林業地の特徴、保育形式が理解出来る。
- 2) 生産目標を達成するための施業方法とその特徴を説明できる。
- 3) 気象条件や立地条件と目標林型より, 現場に望ましい施業方法を選択する基礎知識を持つことができる。
- 4) 政策で勧められている施業方法の得失が理解できる。

■ 授業概要(必須入力)

スギ・ヒノキ人工林で生産目標を達成するためには、森林を理解した施業が必要であり、

1. 日本の森林分布と林業地の特色
2. 森林の地球温暖化防止機能と林業の経済性
3. 間伐による密度管理方式と間伐方法
4. 政策で勧められているコスト重視の間伐、複層林、長伐期施業、針葉樹人工林の広葉樹林化について、各施業の実態と得失を解説する。

■ 授業スケジュール(必須入力)

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | 専門用語、林業の現状、潜在植生、スギ・ヒノキ人工林 |
| 第2回 | 森林土壌、生産目標、保育形式と林型 |
| 第3・4回 | 間伐による林分密度管理の理論と演習 |
| 第5・6回 | 人工林の成長とスギ・ヒノキ現実林分収穫表について |
| 第7・8回 | ヒノキ人工林の天然更新、スギ・ヒノキ人工林の未済造林地の演習(現地:久万高原町内) |
| 第9・10回 | スギ・ヒノキ人工林の広葉樹林化演習(現場:久万高原町内) |
| 第11・12回 | 複層林施業、長伐期施業の得失 |
| 第13・14回 | 現況から選択可能な目標林型の演習 |
| 第15回 | 伝統的な林業の現状 |
| 第16回 | まとめ |

■ 授業時間外学習にかかわる情報(必須入力)

現地実習の一部を欠席した場合は、後日できる範囲で実習の現地へ行き、教員が何を伝えたかったか感じてきて欲しい。

■ 成績評価方法(必須入力)

受講時の質疑応答とレポートにより評価する。

■ 受講条件(任意入力)

■ 受講のルール(任意入力)

4日間の集中講義(1日4コマ)を予定しています。3日は久万高原キャンパス、1日は樽味キャンパスで開講する予定です。

教科書 (購入する必要のある図書) (必須入力)

教科書1	書名	該当なし			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	
教科書2	書名				ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) (必須入力)

参考書1	書名	主張する森林施業論—22世紀を展望する森林管理—			ISBN	978-4-88965-169-0
	著者名	森林施業研究会	出版社	日本林業調査会	出版年	2007
参考書2	書名	イラスト図解 造林・育林・保護			ISBN	978-4-88138-196-0
	著者名	月刊「林業新知識」編	出版社	(社)全国林業改良普及協会	出版年	2008

教科書・参考書に関する補足情報 (必須入力)

必要な資料は、授業当日に印刷物を配布します。

オフィスアワー (必須入力)

本館南棟305号。木曜日。主にE-mailで連絡下さい。

連絡先 (必須入力)

参照ホームページ (任意入力)

該当なし

その他 (任意入力)